

緑の斜面

80号



林道と治山の事業連携によるみどりの復旧（足柄上郡山北町皆瀬川 伽藍沢）

CONTENTS

森のニュース	令和5年度神奈川県林業分野における 脱炭素社会の実現に向けた取組について 1
わが市わが町	寒川町 ～森林と人との豊かな関係を目指す～ ... 3
森林環境譲与税 の取組み	「さがみはら津久井産材」で作った東林間児童館 ～ふるさとの木の温もりに包まれて～ 4
森林づくり活動 グループの広場	海老名の森（海老名市） 7
事務局便り 9

令和5年度 神奈川県林業分野における脱炭素社会の実現にむけた取組について

1 はじめに

近年、地球温暖化の影響により、世界各地で、干ばつ、洪水被害などの災害が発生しており、私たちや将来世代のいのちを脅かしています。県内でも令和元年の台風19号による甚大な被害等が記憶に新しいところですが、こうした状況に歯止めを掛けるためには、地球温暖化の主な原因となる、CO₂などの温室効果ガスの排出を実質的にゼロにする脱炭素社会の実現が必要です。神奈川県では、日本を含めた他の多くの国や他の自治体等と同様に、「2050年脱炭素社会の実現」を表明し取組を進めています。

これに伴い、林業分野においては、脱炭素化及び持続可能な林業の構築に向けた取組として、令和5年度から新たに4つの事業を実施します。本稿ではこれらの事業について御紹介します。

2 取組事業

(1) スマート林業機器の導入支援事業

脱炭素社会の実現に向けて森林資源の循環利用を加速化するためには、ICTの活用によりデジタル化された森林資源情報をベースに、「伐って、使って、植えて、育てる」経営管理を適切に行う必要があります。そのため、データのデジタル化に必要なICT機器や、自動化・自走化機械等のスマート林業技術の導入を支援し、作業効率や労働安全性

の向上を目指します。具体的な補助対象としてはドローン（無人航空機）、高精度GNSS受信機、レーザー測距器、枝打ちロボ等です。

このほか、森林整備業務におけるドローンの活用を推進するため、林業事業者向けにドローンの操作技術や森林情報の解析技術の講習を開催します。



GNSS受信機
クリーゼ公式 HP より



レーザー測距機
フォンドリエスト公式 HP より

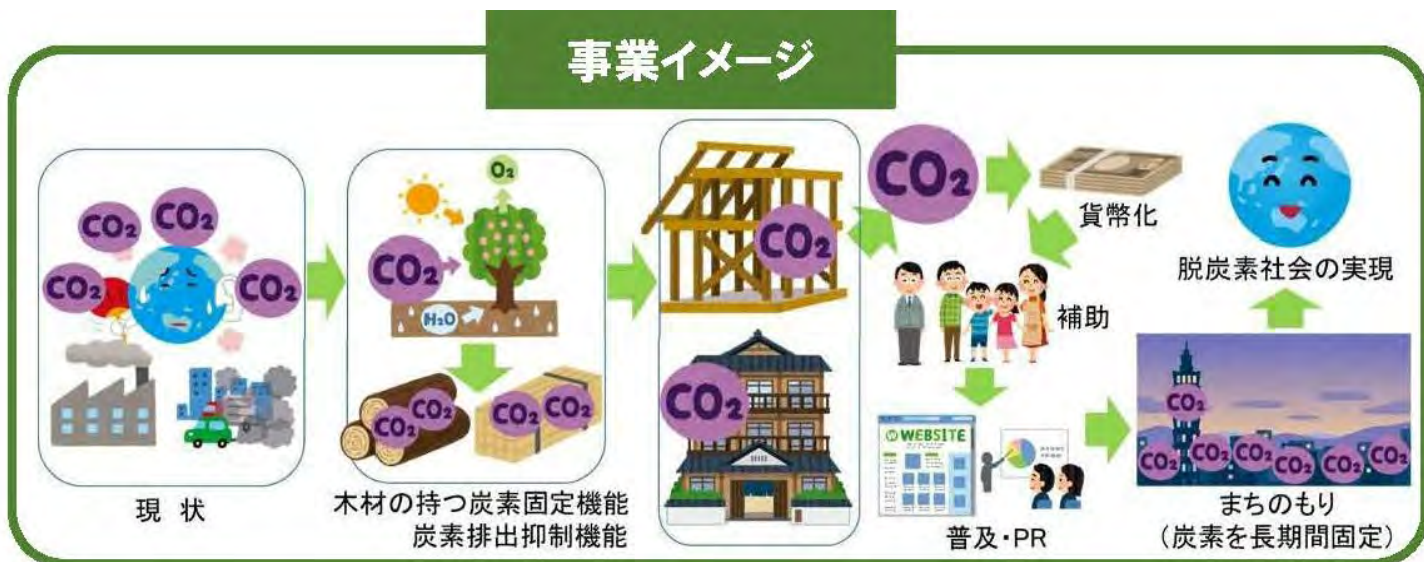


(2) 高性能林業機械等の導入支援事業

木材生産に積極的に取り組む林業事業者に対し、高性能林業機械等の導入を支援することで一層の機械化を図り、素材生産性の向上及び労働災害の軽減と、森林資源の循環利用による森林吸収源の確保・増加を目的とする事業です。導入を図る機械は、フォワーダ（木材を運ぶ車両）、スイングヤード（機械のアームを利用して集材する機械）、ハーベスタ（伐倒から枝払い・玉切りまでできる機械）等です。



事業イメージ



(3) 神奈川県まちのもり創出事業補助

パリ協定の枠組の下における温室効果ガスの削減目標の達成や、災害防止等を図るため、令和元年から森林環境譲与税（以下「譲与税」という。）が創設されました。譲与税の目的を達成するために、木造施設的环境負荷の低さや、木材の持つ炭素固定機能を広く県民の皆様へ周知すると共に、譲与税に対する理解の醸成や脱炭素社会の実現を目指し、建築主が木造施設等を選択し建築を行うことで抑制される炭素排出量や固定される炭素量の価値に対して補助を行います。

(4) エリートツリーの研究開発事業

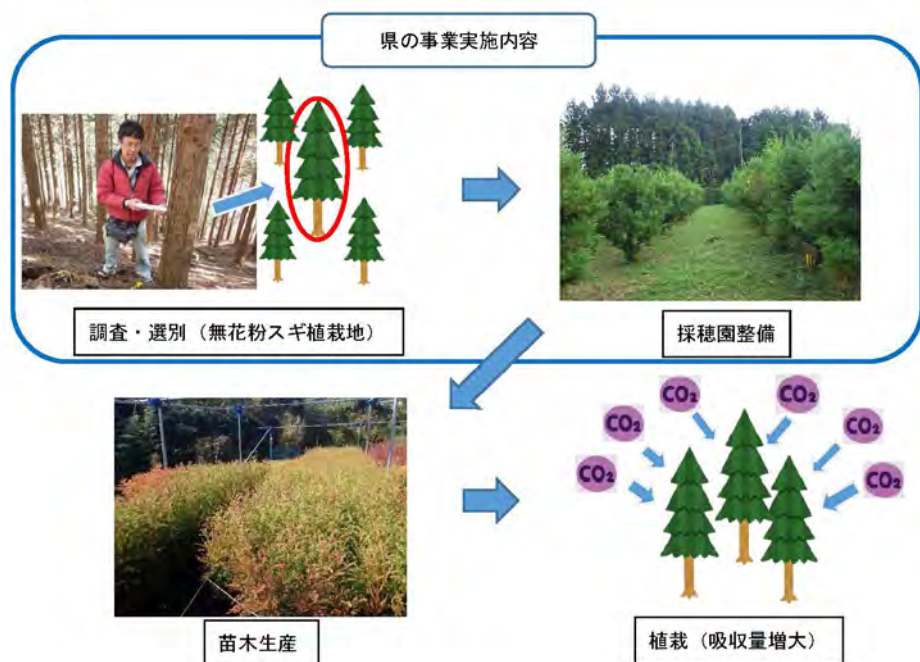
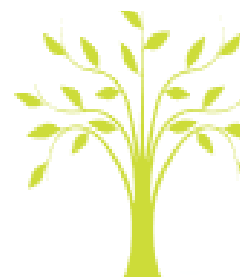
エリートツリーとは精英樹（成長が早く、性質が優れたもの）のうち特に成長性等に優れたものを国の研究機関が交配し選抜した品種です。初期成長の早さが従来品種の概ね1.5倍以上と早いことが特徴で、造林初期コストの低減や炭素固定能力の増加が期待されています。しかし、このエリートツリーにおいては、花粉症対策品種としての基準を満たす品種は無く、「神奈川県花粉発生源

対策10か年計画」に基づき花粉発生源対策を推進している本県では導入を見送ってきました。そこで、究極の花粉症対策品種として県内で生産している無花粉スギのうち、特に成長の優れた品種を本県独自の“エリートツリー”として選抜し、挿し木苗として利用していくための研究開発を行うほか、選抜した“エリートツリー”を炭素固定と花粉発生源対策の双方の効果を発揮する品種として増殖し普及を図るため、採穂園を整備します。

3 おわりに

脱炭素社会実現への取組は始まったばかりです。神奈川県は今後も新規事業や各種制度を活用することによって、脱炭素化および林業の活性化に向けた取組を一層推進してまいります。

(神奈川県環境農政局緑政部森林再生課)



わが市わが町

寒川町



役場庁舎より西方向。寒川神社参道と富士山

神奈川県中央部を流れる相模川の河口から北に約6kmの左岸に位置するわが町は、湘南地域の一角を占めていて、明治22年に11か村を合併して「寒川村」として発足し、昭和15年に町政を施行して「寒川町」となり、現在に至っています。

町の総面積は13.42平方キロメートル。人口は約4万8千人で、県内では最も人口の多い町です。標高は5～27mと比較的平坦な地形で、茅ヶ崎市、藤沢市、平塚市、厚木市、海老名市に隣接しています。

わが町には茅ヶ崎市と相模原市緑区を結んでいるJR相模線が走り、寒川、宮山、倉見の3つの駅があります。茅ヶ崎で東海道線、海老名で小田急線や相鉄線に乗り換えると、東京都心まで1時間少々で行くことが可能で、通勤通学の重要な交通手段となっています。また、平成27年の圏央道開通に伴い、町内のインターチェンジから関越道や東北道方面へ都心を通り越さずに行くことができるようになったことで交通の便が一層良くなり、産業や居住の地として選ばれています。

わが町には神奈川県下第3位の参拝客数を誇る寒川神社があり、JR相模線宮山駅から徒歩5分、圏央道

寒川北インターチェンジから車で5分という交通の便の良さもあり、県内はもちろん県外からも多くの参拝客が年間を通じて訪れています。

その寒川神社の南には、松を主体とした参道が約700mにわたって延びており、寒川神社の北約1kmのところには広葉樹を主体とした民有林、町中央部東側には広葉樹を主体とした民有林もあり、森林面積の少ないわが町ではこれらがまとまった森林となっています。わが町には公有林は存在しないため、いずれの森林も地権者による維持管理が行われています。

わが町とゆかりの深い歴史上の人物の一人が、源頼朝の側近として鎌倉幕府の草創期に活躍した梶原景時です。令和4年にNHKで放送され

た大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場する武将の一人で、鎌倉を追われてわが町へ下向しており、一之宮8丁目にある天満宮付近に館を構えたという伝承があります。また、大河ドラマに関連した番組「鎌倉殿の13人大河紀行」ではわが町が取り上げられ、梶原景時ゆかりの史跡も紹介されました。前述の寒川神社には梶原景時の次男景高が赴いており、わが町と梶原氏とのゆかりが強かったことを示しています。

住宅地の面積比率が高く、森林の面積は少ないわが町ですが、森林の保全及び利用活動への町民の参画を促し、森林と人との豊かな関係回復と創出を図っていきます。

(農政課 勝亦信義)



現在の天満宮：梶原景時館跡

「さがみはら津久井産材」で作った東林間児童館 ～ ふるさとの木の温もりに包まれて ～

森林環境譲与税の取組 相模原市

政令指定都市である相模原市は都市と自然の両方の顔を持っています。木材生産から加工、消費まで相模原市内ですべて完結できる環境にあり、これを活かして様々な森林・林業施策を展開しています。森林環境譲与税は概ね森林整備に7割、人材育成に1割、木材利用促進・普及啓発に2割の割合で活用しています。

今回、相模原市の森林環境譲与税の取組として取り上げたのは、木材利用の分野です。令和4年度に「さがみはら津久井産材」を用いて東林間児童館の建替工事を行いました。その始まりから完成まで関わった方々に取材したので、そのお話を

基にご紹介します。

はじめに

東林間児童館は、相模原市「東林間神社」の境内にあります。「神奈川県神社誌」によると「東林間神社」は「当時は小さな寒村であったが、小田急線の開通により人口が急増し、小田急より寄贈された境内地に昭和31年4月15日社殿を建設、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請した」とあります。その境内に昭和40年に建設された東林間児童館は、地元の子供たちの遊び場、学習の場、スポーツの場など様々な場面で地元の方に親しまれ、竣工から約57年が経過していました。

老朽化した同児童館は以前から建て替えの要望があり、令和2年3月

に策定した「相模原市一般公共建築物長寿命化計画」において令和4年度児童館整備事業として全面的に建て替えることになりました。旧建物は令和4年3月末をもって閉鎖され、令和4年春から工事が始まり、新しい木造平屋建ての児童館が令和5年3月に完成したのです。



館内の様子（卓球）



東林間神社の境内に立つ東林間児童館



児童館外観

木材の利用

木造平屋建ての児童館に使用された木材の量は全体で約90m³です。そのうち、「さがみはら津久井産材」は約70m³使用、構造材として100%使用されています。

児童館を「さがみはら津久井産材」で建てようという話はどこから出たのでしょうか。森林政策課の担当者に聞いてみました。

「本市では、公共建築物の整備において、地元産材であるさがみはら津久井産材の使用に努めておりますが、本児童館のように多量に使用する事例は過去に無く、設計事務所を含め、関係者と調整を重ねたことで、構造材に「さがみはら津久井産材」を100%使用した児童館の建設が実現しました。」

「設計の特徴は何ですか。」

「梁の中の一番長い材は6mありますが、公共的建築物としての強度を保持して6間の無柱空間を実現するためには、JAS認定の正角材(10.5cm×10.5cm及び12cm×12cmの正方形断面の柱材)を使用した「束ね梁」による軸組構造※1や、木材の接合にホームコネクター工法※2という、特殊な金物を使用する工法を使用するなど、設計において



正角材に製材

試行錯誤していただきました。」

「材料の調達はどうしたのですか。」
「実際にどこから調達するかは施工業者が決める事項になりますが、必要な寸法、材質を持った「さがみはら津久井産材」を生産しておかなければいけないので、設計と並行して令和2年度に林産の実績のあった相模原市内の林業事業体3者に木材の生産をお願いしました。」

木材の調達

生産を依頼された3者は、さがみはら津久井森林組合、(有)サトウ草木、(有)杉本林業です。3者は相模原市緑区内でスギ、ヒノキを生産し、相模原市緑区鳥屋にある神奈川森林組合連合会の津久井貯木場に持ち込

みました。同じく長竹に工場を持つ(株)市川屋が製材、乾燥して工事業者に納入しました。

3者に原木の調達についてのお話を伺うことができました。

「ヒノキの直径20cm内外の材が欲しいという注文でしたが、結局スギが大半になってしまいました。相模原市内はスギの方が多いためです。こちら辺は小仏山地でスギの適地なので昔から良いスギが採れるんです。」
「柱材にちょうどいい大きさの材があまり多くなくて大径材が多くなってしまいました。」

「6mの材が足りないという話が来て、慌てて出したこともありました。」



伐採した原木の積み込み



運搬してきた原木の荷下ろし

再び森林政策課に聞いてみました。「現在、相模原市内の山の木は大径材が多く、ロスが多くなる場所でしたが、結果的に別の学校施設の工事で腰壁などの内装に使用でき、生産された材を活用することができました。」

完成した児童館

完成した児童館を実際に拝見させていただきました。木材がふんだんに使われている建物です。腰壁も天井もきれいな木目が揃っていて、良い材を選んで施工したことがよくわかります。木材の使用に相当気を使って、丁寧に仕事をしたようです。実際に使用している児童館館長にお話を伺いました。

「こんなにきれいな建物なので、長く大事に使っていきたいと思っています。児童館ですが、地域の方は誰でも利用できます。今日は卓球で使っていますが、剣道、ヨガ教室などでも利用されています。」

明るいホールではご年配の方々が歓声を上げながら卓球を楽しんでいました。四方が木材で囲まれているので音響も良いようです。

「児童館を建てた場所に大きな桜があって伐ることになったんですよ。皆に長く愛された桜の大木だったので、その材を有効利用したいと思って、子供たちと大人でそれぞれピクセル画を作成しました。ピクセル画の下にもその事を書いたプレートも張ってあります。」



子供たちが作成した桜材のピクセル画

受付のカウンターもその桜を使っています。各部屋の表示版もその桜の材で作成しました。「子供たちには時々その話をしてあげます。桜の木は伐られたけど、こうして使われて長く役に立って行くんだよ。」

この児童館で遊んだ子供たちは、ふるさとの木の温もりをいつまでも忘れない事でしょう。そして、木の良さや森林の大切さを広めてくれることと思います。



部屋のサイン



桜材のカウンター

(事務局)

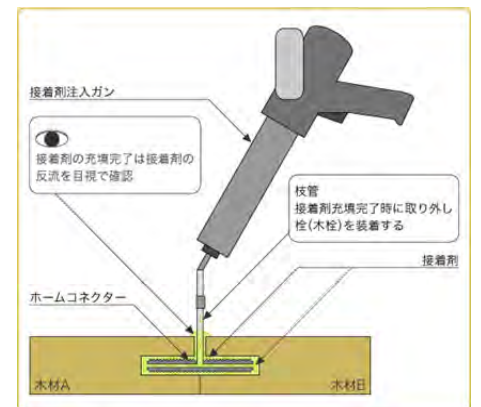


大人たちが作成したピクセル画

※1「束ね梁」による軸組構造 梁の剛性を高めるために、正角材同士の間隙に隙間を設けて木材を束ねた「束ね梁」を使用。



※2 ホームコネクター工法



「株式会社ホームコネクター」HP より



森林づくり活動グループの広場

海老名の森

森の入口 冬

1 海老名の森

森の正式名称：「上今泉秋葉台自然緑地」（検索可）

海老名市の市有地（面積 1.4㊦）標高 80 m 住所：海老名市上今泉 4・5 丁目

座間丘陵の稜線上に有り、座間市との境界に位置しています。見晴らしが良く丹沢を一望できます。稜線は平らなところもあってそこが主な活動地域になっています。周囲はすべて宅地（但し、座間市側のすぐ隣に 10㊦以上の広い森があります）で、コナラ、クヌギを主にした雑木林とスギ、ヒノキの人工林からなる森で、シラカシ、オオシマザクラの巨木も混在する都市近郊の小さいが貴重な森です。

2 市民ボランティア「海老名の森」の紹介

1995 年 11 月散乱している粗大ごみや産業廃棄物など不法投棄の片付けが最初の取り組みでした。【森づくりと森あそび】を活動の主テーマにして、「身近な自然とのふれあい、人とのふれあい」を実践した活動でかれこれ 30 年になります。手

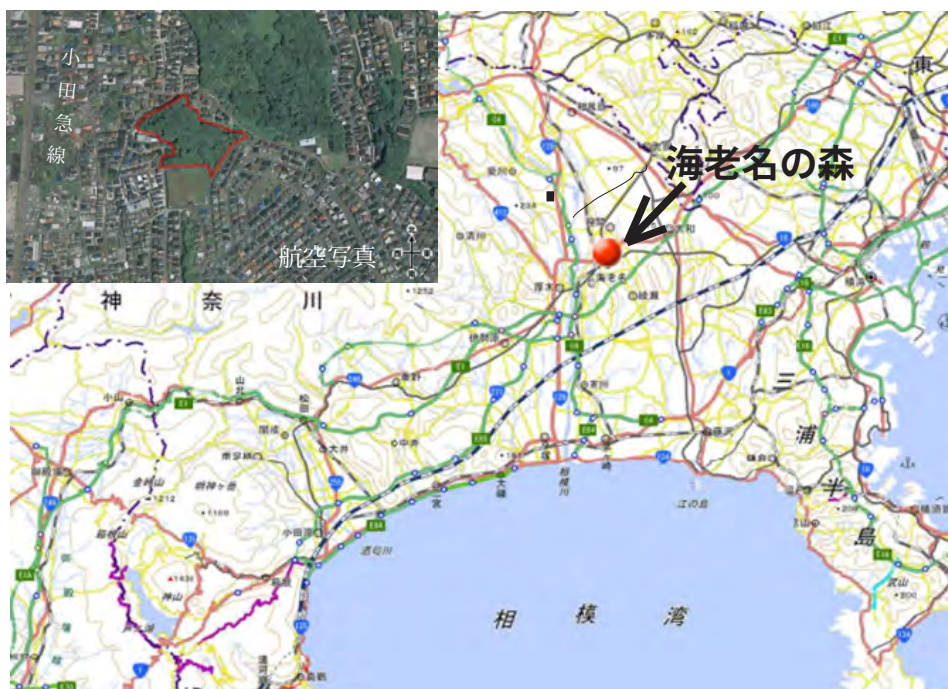
入れさえ怠らなければ、近くにこんなに気持ちの良い雑木林が存在し続けることに、気付いてもらいたい切なる思いを込めて活動しています。

定例活動は、毎月第 1 日曜日に、そうじ・笹刈り・落ち葉かき・その他の作業と「あそび」を行うほか、「海老名の森通信」を発行しています。

特に「あそび」は、森の季節に応じ、森のコンサート（海老名の森、

自作のテーマ曲あり）、ステンシルの葉っぱのスタンプづくり、ハイジのぶらんこ、懸垂下降、落ち葉のソリ、落ち葉のプール、植物観察、昆虫取り、野鳥観察（巣箱設置）、葉脈標本と 1 年を通して盛りだくさんです。

活動の成果としては、①雑木林のほっとする空間の確保 ②ヤマユリ、キンランなど自生植物の増加 ③森のコンサートを通して地域との交流



「国土地理院ウェブサイト」より



ハイジのぶらんこ

や他団体との交流が促進 などがあ
げられます。

現在、会員数 20 名、賛助会員
数 7 名です。

かつては、会員の平均年齢が毎年
上がり続けておりましたが、ここ数
年、嬉しいことに若い家族の参加が
増え、15 才位若くなりました。た
だし、運営はまだ時間の取れる高齢
者中心なので、どう引き継いでい
くのが課題です。

私どもの活動には一つのこだわり
があります。

キーワードは**雑木林**です。これを
維持していくことで、生物の多様性
とかつて行っていたと思われる伝統
的な農法を少しでも伝えていきたく
と思います。落ち葉かきは、循環型
農業の肝で堆肥作りに無くてはなら
ない冬の作業です。大人から子供ま
で安全に楽しみながら出来るので、
これだけは続けていきたいです。雑
木林の役割は、暮らし（農業）から
健康やレクリエーション重視の利用
に変わりました。どんどん使わせて
もらいながら、こうした活動を通し

て環境に対する意識も高めていきたく
と思います。

利用事例—①堆肥：家庭菜園・花

壇用 ②ナラ枯れ伐採木：薪ストー
ブとキャンプ用

3 これから

ナラ枯れ対策で枯死した大径木の
コナラ、クヌギ、シラカシの 3 種
合計約 40 本が伐採されました。ナ
ラ枯れでこれ迄手付かずだったこれ
らの木の伐採について考える、良い
機会になりました。今後、海老名の
森をどういう森にしていくのか、伐
採した後は植樹をするのかしないの
か等、検討事項は色々あります。さ
らには、ボランティアグループをど
ういう方向に進めて行くのか、海老
名市との協働作業ももっと進めなく
てはと、考えること、実行に移すこ
とはまだまだ沢山ありそうです。

(海老名の森 代表 田村 耕三)



森のコンサート



落ち葉かき

事務局便り INFOMATION

令和4年度森林林業功労者が会長より表彰されました

地域の林業の発展や、森林環境の保全に顕著な功績のあった個人、団体を表彰しています。

令和4年度は次の2名の方が表彰されました。

おめでとうございます。

- ・佐藤 治男 様(相模原市)
- ・高橋 義雄 様(小田原市)



写真は高橋会長と表彰された佐藤氏(左)と高橋氏(右)

第14回通常総会が開催されました

1 日時 令和5年5月25日(木)
15時30分～

2 場所 厚木商工会議所

3 議事

- ①令和4年度事業報告及び収支決算報告
- ②令和5年度事業計画及び収支予算(案)
- ③令和5年度会費の賦課及び納入方法(案)
- ④役員改選(案)

議案は原案通り承認決定されました。

表紙写真解説

令和元年10月の台風19号で山北町玄倉と松田町寄を結ぶ県営秦野峠林道の上部斜面が大規模に崩壊しました。崩壊地は、林道から直高約70mの高所、かつ風化の激しい凝灰岩地帯の脆弱な急斜面であり、復旧工事は、非常に困難を極めることとなりました。しかし、治山工事担当と林道工事担当が連携し、令和3年2月8日から令和5年3月31日までの約2年間をかけ、なんとか無事に完成にこぎつけました。

台風一つが県内を通過するだけで、大正12年9月に発生した関東大震災の傷跡を残す丹沢山地は、容易く被災してしまいます。治山・林道工事をはじめとした森林・林業関係の不断の取り組みが、県民共有の財産であるみどりを維持することに寄与しています。

役員紹介

令和5年6月1日現在の当協会の役員は次のとおりです。

神奈川県森林協会役員

令和5年6月1日現在

会長	秦野市長	高橋 昌和
副会長	南足柄市長	加藤 修平
副会長	箱根町長	勝俣 浩行
副会長	県森林組合連合会会長	小泉 清隆
専務理事	神奈川県森林協会(事務局)	内山 豊
理事	横浜市環境創造局長	遠藤 賢也
理事	川崎市長	福田 紀彦
理事	相模原市長	本村 賢太郎
理事	横須賀市長	上地 克明
理事	鎌倉市長	松尾 崇
理事	小田原市長	守屋 輝彦
理事	厚木市長	山口 貴裕
理事	伊勢原市長	高山 松太郎
理事	松田町長	本山 博幸
理事	山北町長	湯川 裕司
理事	清川村長	岩澤 吉美
監事	茅ヶ崎市長	佐藤 光
監事	愛川町長	小野澤 豊



ロッククライミングマシンによる崩壊地の整形



ロックボルト併用した法枠工で崩壊地表面を固定

ごあいさつ

令和5年6月1日より、当協会の専務理事として就任しました内山 豊です。会員並びに関係機関の皆様のご指導・ご支援をいただき、当協会の運営に努めてまいります。よろしくようお願い申し上げます。

広報誌 緑の斜面 VOL 80

／ 令和5年7月31日発行



HOME PAGE
<https://k-crk.com/>

編集・発行

神奈川県森林協会

住所

厚木市中町2丁目13番14号 サンシャインビル604

任期 令和6年5月31日